

学問の独立 国民の模範

清華大学学生代表

見学日時：2016年5月30日（月） 16:00-21:00

見学場所：早稲田大学

見学概要

早稲田大学は1882年に創設され、創立者は明治維新時代の元老の一人である元内閣総理大臣の大隈重信である。早稲田大学は「学問の独立」、「学問の活用」および「模範国民の造就」を教旨としている。2015年にイギリスQS社が発表した世界大学ランキングでは、早稲田大学は世界で212位、アジアで39位、日本で9位(私立大学では1位)となっている。早稲田大学には複数のキャンパスがあり、私たちは今回そのメインキャンパスである早稲田キャンパス(旧名称:西早稲田キャンパス)を訪れた。

私たちはまず白木三秀教授が主催の日中学生討論会へ参加をした。中日両国の学生が自由に4～6人のグループとなり、日本語または英語で交流をしながら共に興味のある話題について討論をした。討論会のテーマは二つ、一つめは私たちの将来のキャリア計画および将来のキャリアのために私たちが現在行っている準備について、二つめは私たちが近頃読んだ面白い書籍についてである。これらの話題について、まず20分間の自由討論をし、その後各グループの代表者が皆の前で討論結果のプレゼンテーションを15分間行った。



中国人学生のプレゼンテーションの様子

討論会終了後、学生や教員全員が懇親会へ参加し、皆はリラックスした楽しい雰囲気の中、さらに交流を図った。



にぎやかな懇親会

知っていますか？

問：早稲田大学はこれまで何名の歴代内閣総理大臣を輩出しているのか？

答：石橋湛山、竹下登、海部俊樹、森喜朗、小渕恵三、福田康夫そして野田佳彦の7名で、第二次世界大戦後において最も多くの内閣総理大臣を輩出している大学である。また早稲田大学は、ソニーの創業者井深大、サムスンの創業者李秉喆、カシオの創業者樫尾忠雄など多くの世界的企業のトップも輩出している。

問：早稲田大学は中国の近代化にどのような貢献をしてきたのか？

答：早稲田大学は日本で最も多くの留学生を受け入れている大学で、自大学の全学生を海外へ派遣するという目標も持っている。早稲田大学と中国との交流の歴史は長く、1905年に清国留学生部を設立したのを皮切りに、早稲田大学は中国の近代化のための人材育成の面で大きな役割を果たしてきた。初期の中国共産党のリーダーである陳独秀、李大釗などはいずれも早稲田大学の卒業生である。

感想

京都大学での交流とは異なり、早稲田大学では4～6人のグループで交流が行われたため、学生同士の交流はより活発で緊密になり、皆は他人の話に十分に耳を傾けつつ、自分の意見を発表する必要があった。今回の交流における話題も学術的な問題から学生の生活面に変わり、私たちは日本の学生の日常生活や学習などの習慣についてより深い理解をすることができた。また、プレゼンテーションの時間が充分にあったため、大多数のグループは2人の代表者によりプレゼンテーションをし、私自身もグループを代表して私たちのキャリア計画についての考えを発表することができた。これは、総括能力や表現能力、またそれ以上に私自身の度胸を鍛えることができた非常に得難い機会であった。

早稲田大学は私立大学であるが、非常に高い教育水準に達しており、日本や世界に多くの人材を送り込んでいいる。対して中国の一部の公立大学はすでに比較的高い水準に達し、国際的にも一定の評価を得ているが、私立大学の発展については楽観できない状況にある。そのため中国は私立大学への支援を強化し、高等教育の活力を呼び覚ましていかなければならないと思う。